



# 京都府議会海外調査 ドイツ・オランダ調査団 調査概要資料

平成29年8月27日(日)～  
平成29年9月3日(日)

# ドイツ・オランダ調査団

## 調査訪問先

### ①ドイツ連邦共和国/フライブルク

ドイツ南西部、バーデンヴュルテンベルク州の都市。人口は約20万人。  
環境保護で先進的な取り組みをしている都市であり、日本では「環境首都フライブルク」と紹介されることが多い。  
フライブルク大学など教育機関も多く、ドイツの古典的な大学都市の一つである。

### ②ドイツ連邦共和国/シュツットガルト

ドイツ南西部、バーデンヴュルテンベルク州の州都。人口は約60万人。  
古くからライン川流域とドナウ川流域を結ぶ交通の要地で、自動車、電気機器などの工業が盛んである。

### ③ドイツ連邦共和国/フランクフルト

ドイツ中部、ヘッセン州にあるドイツ有数の商工業都市。人口は約70万人。  
ドイツの経済、金融の中心地であり、ユーロを統括する欧州中央銀行や、ドイツ連邦銀行など、数多くの金融機関が所在する。

### ④オランダ王国/アムステルダム

オランダ北西部、北ホラント州の都市。オランダの憲法上の首都であるが、国会、政府機関など首都機能のほとんどはハーグにある。人口は約80万人。  
16世紀以降、海運貿易の港町として、ヨーロッパ屈指の商業都市へと発展。  
アムステルダム中央駅を中心に市内に網目状に広がる運河で知られる。

### ⑤オランダ王国/ユトレヒト

オランダ中部、ユトレヒト州の州都で、アムステルダムの南東約40kmに位置する。  
オランダ第4の都市で、人口は約30万人。  
商工業都市として発展しており、また、ユトレヒト大学をはじめ教育機関も多い。

### ⑥オランダ王国/ハウテン

オランダ中部、ユトレヒト州の都市で、ユトレヒト市の南約6kmに位置する。人口は約5万人。  
自転車と徒歩をまちづくりのコンセプトとしており、2008年にオランダの「Bicycle-city」に認められた。

# ドイツ・オランダ調査団

調査①

8月28日(月) 午前・午後 ドイツ/フライブルク

## 「イノベーションアカデミー」 (Innovation Academy)

【テーマ】

### フライブルク市の持続可能な開発と環境への配慮 について

フライブルク市は、環境に対して住民の意識が高く、環境問題に取り組むNGOも多数あり、行政と住民・企業が一体となって環境対策に取り組んでいる。

1970年代に酸性雨によりシュヴァルツヴァルトの森が枯死の危機に瀕したことや、近郊のヴィールに原子力発電所を建設する計画が持ち上がり、反原発運動が起きたことなどから、環境対策が一気に進められた。1975年にフライブルクに設立されたBUND（ドイツ環境自然保護連盟）などが中心となり、シュヴァルツヴァルトの森を守るために、脱原発と自然エネルギーの推進、そして大気汚染対策として公共交通・自転車利用が強化された。

自然エネルギーでは、太陽光発電の普及を中心にしている。交通面では中心部への自動車乗り入れを制限し、路面電車(LRT)を強化すべく、郊外部への延長工事を行い、パークアンドライドを整備している。また、南部ウォーバン住宅地や西部リーゼルフェルト住宅地では、環境に配慮した住宅地が実現されている。

ここでは、再生可能エネルギーの利用、近代化の都市の開発、公共輸送とサイクリングネットワークの拡大、そして都市のための気候行動計画について説明を受ける。

概要説明：8：30～9：30

### 森林施策について



ドイツには森林専門家であるフォレスター(森林官)制度があり、専門家が森林の整備に当たるなど森林の整備・保護に取り組んでいる。

ここでは非営利団体WaldHaus(ヴァルドハウス)から森林保護に関する環境活動とフライブルクでの林業施策について説明を受け、その後、木造建築(CLT)の視察を行う。

WaldHausは2008年秋にオープン。森林の変化を微妙に察知し、それによって森林の持続可能かつ自然な利用を意識して、多面的な成果を生み出す生態系森林をもたらすことを目的とし、持続可能な林業の促進と森林に関する環境教育を提供している。

フライブルク地域における林業と持続可能性のスキルは、WaldHausで結集され、政治、科学、経済、行政、メディア、世論などのプラットフォームを提供している。

概要説明：10:00～11:30

## 木造建築住宅(CLT建築)

### Solar settelement

公共電力ネットワークにエネルギーを供給する屋根の上に太陽光発電設備を備えた木製プラスエネルギーハウス



### House of farmers

川の水からの冷暖房、屋根の上の太陽光発電を設置した住宅



### 難民用木造住宅

3人の建築家とともに、フライブルク市がモジュール式に整備した木造難民用住宅

現地視察: 13:30~14:30

### 調査②

8月28日(月)午後 ドイツ/フライブルク

## 「フライブルク観光局」

(Freiburg Tourism organization)

【テーマ】

## 観光振興(DMO)について

フライブルクの年間観光客数は約76万人(2016年度統計)

ドイツでは広域観光ルートの形成・運営において、州レベルのDMOと地域DMOが連携している。フライブルクDMOは、地域のDMOであり、フライブルク市が出資する有限会社。観光プロモーションだけでなく、経済振興、コンベンションセンター運営、イベント・見本市開催といったさまざまな業務を担っている。

ここでは、観光マーケティングについて説明を受ける。

概要説明: 15:00~16:30

# ドイツ・オランダ調査団

調査③ 8月29日(火) ドイツ/シュツットガルト

## 「SWBB : Bietigheim-Bissingen」

【テーマ】

### 再生可能エネルギー(バイオマス発電)について

木材チップでバイオマス発電を行い、市内に温熱を直接供給する施設。2009年国際地方温熱供給サミット会議で表彰された環境に配慮され施設。ビーティハイム市が所有。

州政府には環境・気候保護・エネルギー省があり、「自然資源の保護」、「持続可能な気候保護」、「エネルギー、資源の効果的な利用」及び「最新の環境技術の利用」を使命としている。

2050年までに電気エネルギーの消費50%削減、再生可能エネルギーの割合を80%にする計画をたてている。

ここではバイオマス発電の概要について説明を受け、施設を視察する。

概要説明及び施設視察: 11:00~12:30

調査④ 8月29日(火) ドイツ/シュツットガルト

## 「州政治教育センター」

(Landeszentrale für politische Bildung)

【テーマ】

### 政治教育について

ドイツにおける主権者教育は「政治教育」と呼ばれている。政治教育の定義は「民主主義社会における共同生活の基礎を培い、社会に対して責任をもって行動できる良識ある市民を育成し、市民主体の社会をつくるための教育」とされている。

ドイツでは各州に政治教育センターが設置されており、政治に関する情報提供やイベントの実施等が行われている。国では、2003年、「政治教育学及び青少年・成人政治教育のための学会」が各州で実施する政治教育の標準となる『学校における政治教育の国家的スタンダード』を策定している。

ここでは州の政治教育の概要について説明を受け、センターを視察する。

概要説明 15:00~16:30

# ドイツ・オランダ調査団

## 調査⑤

8月30日(水) 午前 ドイツ/マンハイム

### 「風力発電所」

マンハイムに設置された風力発電所。

設置者: Gedeo風力発電。

発電量: 767, 000kwh

※外観からの視察のみ



## 調査⑥

8月30日(水) 午後 ドイツ/フランクフルト

### 「カリタス省エネルギーサービスフランクフルト支局」 Frankfurt Branch of Caritas Energy Conservation Service

【テーマ】

### 地域でのエネルギー政策について

フランクフルト市内においてカリタス会(カトリック系福祉事業団体)が実施した低所得層向けの省エネ・節水事業(省エネや節水対策の助言や省エネ電球、省エネコンセント等の省エネ器具を無料で貸与)の概要及びその効果について説明を受ける。

概要説明: 13:00~14:30

# ドイツ・オランダ調査団

調査⑦ 8月31日(木)午前 オランダ/アムステルダム

## 「オランダ労働組合連盟」

【テーマ】

### ワークライフバランス、働き方改革について

オランダでは、1980年前半に労働需給が急速に悪化し、失業率も14%に達したが、1983年の「ワッセナー合意」により、ワークシェアリングが普及し始めてからは、それに基づくパートタイム労働や臨時雇用を促す政府の政策により、失業率が次第に低下し、女性の労働力率も急速に高まった。「週3勤務」や「週4勤務」という形が珍しくなく、夫婦ともにパートタイマーといった多様な働き方が認められ、子育てにも時間をかけることができることから「世界一子どもが幸せな国」と言われるほどとなっている。

ここでは、ワークライフバランス推進について、その転機となったきっかけのほか、働き方に関する法律・制度などの仕組みづくり、労働者の意識改革、企業・組合の対応、オランダ型ワークシェアリングの特徴、働き方改革の現状と効果について説明を受ける。

概要説明: 9:00~10:30

調査⑧ 8月31日(木)午後 オランダ/ユトレヒト

## 「アンダンハウス」

### Odensehuis Andante Utrecht

【テーマ】

### ユトレヒト市の認知症対策の取り組みについて

ユトレヒト市では、高齢者をより長く社会のメンバーとして活動できるように、高齢者本人、その家族、知人、友人が結束して機能することに重点をおいている。

そのために、認知症初期の方々とお世話している家族、友人等、介護者を対象として、認知症の人と一緒に集まり、問題点を分かち合うという場所を設置している。

アンダンハウスはその一つであり、その1室において、市の認知症対策について説明を受け、その後、認知症に関する取り組みを視察する。

概要説明及び施設視察: 13:00~15:00

# ドイツ・オランダ調査団

調査⑨ 9月1日(金)午前 オランダ／ユトレヒト

## 「認知症モデルハウス」

### Model Woonwijk

ユトレヒト市が設置した認知症モデルハウス。北欧から発生したもので、介護に対する技術を更に発展させるために設置したもの。

モデルハウスの概要について説明を受け、施設を視察する。



施設説明及び視察: 10:00~12:30

調査⑩ 9月1日(金)午後 オランダ／ハウテン

## 「ハウテン市役所」

【テーマ】

### 自転車交通政策について

ハウテン市は、1970年代の人口急増に伴い、自転車を中心とした街づくりをコンセプトに新興住宅地開発を開始。

車に依存せず、CO2削減に取り組む姿が認められ、2008年にオランダの「Bicycle-city」に認められた。市内16の居住区の周りに、環状道路がめぐらされており、居住区内での移動手段は自転車と徒歩が中心となっている。

ここでは自転車交通施策についての概要説明を受け、現地を視察する。

※実際に自転車に試乗予定

概要説明 14:00~17:30

レンタル自転車試乗: 15:30~

